

事項	良質粗飼料生産のための標高別草種・品種の組合せ			
ねらい	公共草地で良質粗飼料を生産するため、新品種を用い、標高別に刈取適期幅・収量・マメ科率等を検討したところ、適当な草種・品種の組合せが明らかとなったので、指導上の参考に供する。			
指導 参考 考 内 容	1 適当な草種・品種組合せ（平成10～13年 青森畜試、秋田畜試、岩手農研）			
	標高別	区分	基幹草種 × 補助草種	
	低標高 (～200m)	早刈用草地	アキミドリⅡ×ミネオオハ オカミドリ ×ミネオオハ	36日間 (青森県)
		中刈用草地	クンプウ ×ノースホワイト ノサップ ×ノースホワイト	
		遅刈用草地	アッケシ ×ノースホワイト ホクシュウ ×ノースホワイト	
	中標高 (200～ 400m)	早刈用草地	(アキミドリⅡ、クタミドリ、トヨミドリ) ×(ミネオオハ、カリフォルニアラジノ)	30日間 (秋田県)
		中刈用草地	(クンプウ、ノサップ) ×(ノースホワイト、フィア)	33日間 (岩手県)
		遅刈用草地	(キリタツプ、ホクシュウ) ×(ノースホワイト、フィア)	
	高標高 (400m～)	早刈用草地	クンプウ×ノースホワイト、 クタミドリ×ミネオオハ	27日間 (青森県)
		中刈用草地	ノサップ×ノースホワイト	
遅刈用草地		ホクシュウ×マキバシロ		
	(注) 1 低標高：青森県(50m)、中標高：秋田県(250m)〈採草〉、岩手県(250m)〈兼用〉、高標高：青森県(700m)の試験成績による。 2 適期幅：1番草を出穂期に刈取った場合			
	2 刈取適幅の拡大 早刈用草地から遅刈用草地を組み合わせることにより各標高とも刈取適期幅は約1か月間保たれる。また、標高別の草地を組み合わせることにより刈取適期幅は約2か月間に拡大される。			
	3 草種・品種の組合せと収量性 これらは草種・品種の組合せにより、低標高で10a当たり1,100kg、高標高では810kgの年間乾物収量が期待できる。			
	4 マメ科率からみた良質粗飼料の生産 TDN58%以上の栄養価を有する飼料を生産するにはマメ科率は概ね20%以上に維持することが必要である。			
期待される効果	刈取適期幅の拡大により、適期刈取が可能となり、良質粗飼料の生産が図られる。			
利用上の注意事項	1 ノースホワイト、ミネオオハについては、県の奨励品種に登録された後に使用する。大葉型クローバのミネオオハについては同タイプのカリフォルニアラジノを代用させる。 2 ホクシュウは県の奨励品種になっていないため、代用品種として早晚性がほぼ同程度のキリタツプを使用する。 3 小葉型品種のノースホワイトについては定着のためには種期を早め、越冬前の生育量を確保する。 4 採草利用においては利用2年目以降マメ科率が低下する傾向にある。また、高標高においてはイネ科牧草によるマメ科牧草の被覆期間が長いことためマメ科率が低下しやすい。このため、マメ科率の維持に向けて、適期刈りの励行や植生に応じた適切な肥培管理が必要である。			
担当	青森県畜産試験場 草地飼料部	対象地域	県下全域	
発表文献等	平成13年度 東北農業試験研究成績・計画概要集 ー草地・飼料作ー 青森県畜産試験場報告 第18号			

【根拠となった主要な試験結果】

表1 草種・品種組合せによる1番草の刈取適期幅の拡大 (平成10～13年 青森畜試)

区分	低標高 (標高50m)		高標高 (標高700m)	
	基幹草種	刈取適期	基幹草種	刈取適期
早刈用草地	アキミドリⅡ	5/24	キタミドリ	6/25
	オカミドリ	5/31	クンプウ	7/4
中刈用草地	クンプウ	6/5		
	ノサップ	6/16	ノサップ	7/9
遅刈用草地	アッケシ	6/24		
	ホクシュウ	6/28	ホクシュウ	7/21
刈取適期幅	36日間		27日間	
標高別草地組合せ	59日間			

(注) 1 低標高：畜試木場 (野辺地町) 高標高：石倉山放牧場 (十和田市)
 2 キタミドリの刈取適期は岩手県のデータを基にした推定値

表2 草種・品種組合せとTDN含量 (低標高) (平成10～12年 青森畜試)

草種・品種組合せ	採草地		兼用草地	
	マメ科率 (%)	TDN (DM%)	マメ科率 (%)	TDN (DM%)
アキミドリⅡ+ミネオオハ	14.8	57.6	30.6	62.5
オカミドリ+ミネオオハ	18.6	58.4	36.5	62.4
クンプウ+ノースホワイト	13.7	56.6	28.7	59.6
ノサップ+ノースホワイト	14.0	56.9	18.4	59.7
アッケシ+ノースホワイト	12.3	57.7	24.4	58.7

(注) 採草地は平成10～11年、兼用草地は平成10～12年の試験成績による

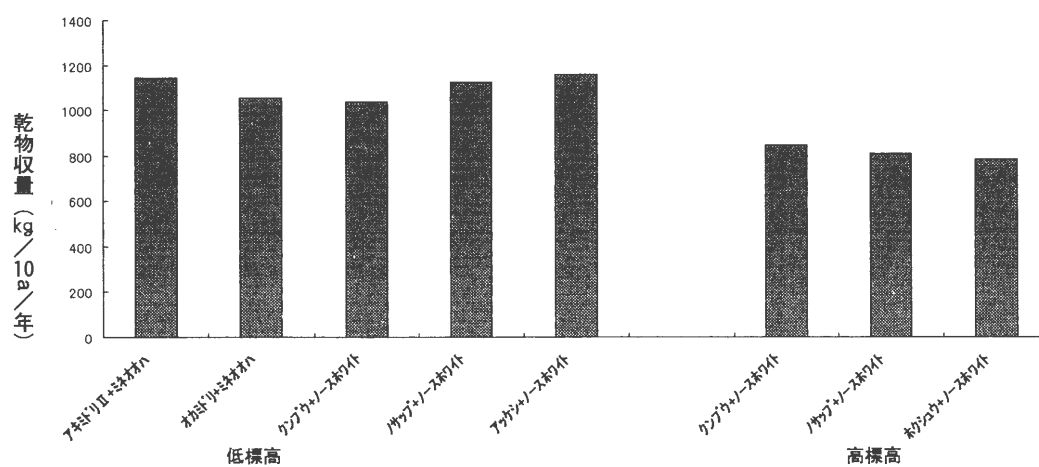


図1 草種・品種組合せと乾物収量

(平成10～12年 青森畜試)

(注) 採草・兼用平均値